

岐路に立つ日韓関係：これからどうすればいいか—韓国立場から

李元徳(イ・ウォンドク)

国民大学 教授

1. 日韓関係の現状診断

- 1) 1965年修交以来最悪(?): 外交冷却、好感度は半減
- 2) 長期的、構造的悪化の持続と深化
- 3) 加害一被害関係の逆転現象: 攻守転換
- 4) 葛藤が歴史問題から政治、経済、安保の領域へ拡大
- 5) 日韓外交問題が両国の国内政治と連動
- 6) コロナ禍と人的往来の全面中断

2. 日韓関係を悪化させる争点

1) 慰安婦合意の問題: 「和解・治癒財団」の解散に対する日本の反発

韓国政府: 慰安婦合意の認定、再交渉は要求しない、

司法の二つの判決: 賠償判決(1月) vs 国家免除(4月)

2) 徴用工裁判: 日本企業の賠償を命じる判決

最大の悪材、在韓日企業資産の差し押さえ、現金化の可能性

3) 安全保障: 旭日旗波紋、レーダー照射葛藤、GSOMIA騒動

4) 経済: 輸出制限措置 vs 日本製品不買運動

5) 北朝鮮政策をめぐる日韓のスタンスに温度差

平和プロセス、柔軟な対話協力 vs 非核化、拉致問題で強硬な姿勢

3. 日韓関係悪化の構造的背景

- 1) 北東アジアにおける国際秩序の変動(パワートランジション): 米中の戦略競争(覇権競争)の熾烈化における日韓スタンスの違い
- 2) 日韓関係が垂直的關係から水平的な關係へ変化
- 3) 両国のエリート同士のネットワークにおける質的变化
- 4) 日韓經濟の相互依存低下: 貿易、金融、産業技術

4. 日韓関係悪化の要因(1)

1) 相互認識(メディア): 誤解、偏見、無知の最大化、相互理解のための努力不足

2) リーダーシップ問題: リーダー同士の疎通不在、10年間の首脳会談断絶
信頼の不足、戦略的対話チャンネルの不通

3) 両国の国としてのアイデンティティの衝突

- ✓ 韓国: 民主人権意識の向上、市民社会の発言権の伸長、被害グループの声が大きくなる、ナショナリズム: 対日外交への圧力
- ✓ 日本: 政治の保守化、主張する外交、積極的平和主義、失われた30年: 社会心理的不安の拡大、歴史修正主義の台頭、歴史和解-寛容外交の失踪

5. 日韓関係悪化の要因(2)

4) 戦略認識のすれちがい

韓国

- 日本は韓半島の平和に邪魔？」(「蚊帳の外」論)、対米中関係への傾斜、
- 南北平和経済、新南方・新北方政策へ戦略的重点をシフト、
- 日本の役割を相対的軽視

日本

- FOIP(自由で開かれたインド太平洋)戦略、QUAD重視外交
- 対米同盟中心の「中国包囲網」形成において韓国は曖昧なスタンス、
- 「自由民主主義と市場経済の価値を共有」、「戦略的に重要な隣国」などの表現が政府文書から失踪

6. 韓国にとって対日外交の重要性

- 1) 日韓関係は対米同盟の隠されたコード: 日米韓安保協力体制の一角
- 2) 日韓関係は対米、対中、対北朝鮮外交などの重要な外交資源
(韓米日、韓中日、南北日、韓口日協力体制の構築)
- 3) 韓国にとって日本は基本価値と規範を共有し、社会経済的に共通の課題を共有する課題先進国
- 4) 米中戦略競争のなかで、戦略的利益を共有する両国関係(安保は対米依存、市場は対中依存する国々の中の二つ)
- 5) 歴史問題に埋没されている日韓関係は韓国にとってもっとも不都合な状態

7. 日韓葛藤の雷管：徴用工問題

四つのシナリオ

- 1) 放置（現状維持）：日韓関係悪化状態の持続、対決
- 2) 代位弁済（基金助成、または立法措置）による解決
- 3) 司法的解決：仲裁委員会、または国際司法裁判所
- 4) 政治的決断：賠償放棄（金泳三Formula）

8. 関係改善を促す内外環境

1) バイドン政府の日韓関係改善への外圧強化

- 同盟外交の強調、FOIP, QUADの活性化、日米韓3国協力システム構築

2) 任期末の文在寅政府; 対日外交姿勢の変化が顕著

慰安婦-徴用問題への認識変化、柔軟な対日外交の開始

3) 苦戦する菅政権: 東京五輪の成功開催、防疫、経済の3課題へ直面

- 近隣外交の再構築が求められる

4) 日韓首脳会談の開催は関係改善の重要なモメンタム

- G7、東京オリンピック

9. 21世紀日韓の共通課題

- 1) 日韓は米中戦略競争に狭間れている共通の運命
- 2) 歴史問題を克服し、共生協力のためのパートナーシップ構築すべき
- 3) 朝鮮半島、東アジア地域、グローバル領域での協力を追求
- 4) 政治経済、安全保障、環境、供給網、技術、知識、文化などの領域で全面的協力が求められる

10. 21世紀の日韓関係の未来ビジョン

冷戦下の
独仏関係/独・ポーランド
関係から学ぶべき

基本価値とルールの共有を
基にし、全分野にわたって
協力を追求

東アジアの
平和・繁栄を牽引

日韓協力を両国に止まらず、
韓半島、東アジア、グローバル
レベルで見通す。

政治経済、安全保障、文化、
環境、情報知識、科学技術な
どの全面的協力